



病気に負けず頑張ろう！

千葉県支部長 横田 仁 (生産機械工学科・1973卒)

校友会千葉県支部長を拝命して早5年になりますが、私は文章作成が不得意で毎年千葉県支部会報の発行にあたり巻頭挨拶を書くための話題を考えるのに苦労してきました。今年も取り留めのない話を書き綴りたいと思います。

近年の3年間は新型コロナウイルス感染症のため、校友会活動、校友会千葉県支部活動ともに対面活動ができず大変制約を受けてきました。新型コロナウイルス感染症はまだまだ続くとはいいますが、今年からは新型コロナウイルス感染症の分類が2類から季節性インフルエンザと同じ5類に変更になり、対面でもマスクなしで会話出来るようになりました。校友会活動も例年通り開催でき、もちろん千葉県支部も以前通り活発に活動出来るようになるので、今年こそは芋ほり&バーベキュー大会、親睦ゴルフ大会、居合抜き体験等々、楽しいイベントをたくさん開催したいと思います。

話は変わりますが、千葉県支部会報No.26で私が膀胱がんに罹患して手術をしたことの報告をしました。2回の手術の結果順調に回復し、今は3か月ごとの検診を行っております。しかしながら、今度は健康診断で食道に異常が見られると言われ、膀胱がんでお世話になっている病院で精密検査を受けたところ食道がんと診断されました。その病院では抗がん剤治療ができないので国立がん研究センター東病院の紹介を受けました。再度内視鏡検査をしたところ、胸部食道がんと下咽頭がんが見つかりました。胸部食道がんの進行状態はステージⅡで下咽頭がんは初期状態のため、胸部食道がんを先に手術することになりました。

治療方法は、抗がん剤投与のため1週間ほど入院して、その後2週間自宅療養。これを3回繰り返し、がんの進行及び縮小を図ってからがん摘出手術を行うとのことでした。3回の抗がん剤投与の結果、胸部食道がんの進行は抑えられ少し縮小し、下咽頭がんはほとんどなくなりました。胸部食道がんの手術は頸部2か所と腹部を少し切開し、胸部食道と胃の三分の一を切除しました。同時に、頸部、胸部、腹部にわたるリンパ節郭清を行いました。食道切除後は、胃を引き上げて残っている頸部食道と縫い合わせて食道の代わりに再建しました。胃の一部と食道を切除しているため、手術後は今まで通りの食事量を取ることができなくなっています。三度の食事の間に中間食を取り、五食として必要エネルギーを補給しなければなりません。それでも手術直後は必要エネルギーが不足するため2、3か月間は腸瘻で直接腸に栄養剤注入をしなければなりません。胸部食道がんの手術は無事終わりました。もう一か所の下咽頭がんはほとんどわからないほど縮小していましたが、内視鏡で下咽頭部分の細胞を採取したところががん細胞がまだ残っているのが発見されました。今後、口内から内視鏡手術で除去する予定です。

取り留めのないことを長々と書き綴ってきましたが、5年間の千葉県支部長の間3年間は新型コロナウイルス感染症と、またこの1年半はがんとの戦いに明け暮れ支部活動もままなりませんでした。校友会千葉県支部会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫びしつつ支部会報の巻頭の挨拶とさせていただきます、私はしばらく病氣療養に専念させていただきます。

高齢者川柳
断捨離の
品々眺めて
元の場所

第68回千葉県支部 報告会兼意見交換会と 懇親会開催ご案内

日時：令和5年6月3日(土) 14:00開会
会場：船橋市勤労市民センター 船橋市本町4-19-6
☎ 047-425-2551 HP <http://funabashi-ksc.or.jp>
交通：JR船橋駅 南口徒歩5分 京成船橋駅 東口徒歩3分
会費：5,000円(懇親会費として) 懇親会会場：土風炉(船橋市)

◎当日のスケジュール 1. 報告会兼意見交換会 14:00~16:00 2. 懇親会 16:30~18:30

報告会兼意見交換会と懇親会にご出席頂ける方は、5月31日までにメールまたは電話でご連絡ください。

【連絡先】 メール：chiba@kogakuin.or.jp 電話：090-5577-0932 (新海携帯)

誠に恐れ入りますが、報告会兼意見交換会にご出席できない方は、年会費を同封の払込取扱票にてご送金ください。その際、通信欄にメールアドレスをご記載いただければ、そちらに支部報告会兼意見交換会のみならず、各種行事の案内状を配信させていただきます。

支部からの案内は校友会のホームページ『校友会HP⇒支部活動⇒支部掲示板⇒千葉県支部』からもご覧になれます。

千葉県支部報告

1. 支部報告 (新海 昌美)

新型コロナウイルス感染症はいまだに終息の気配が見えませんが、しかし第八波の患者数は幾分か減少している様子です。(2023年2月4日現在)

そのようなコロナ禍の中、政府は行動制限を撤廃しました。支部としては年度始めに計画した事業のいくつかを実施しました。

・芋ほり&BBQ大会

9月24日(土)に2年ぶりの大会を計画し、台風15号の接近が心配でしたが、前日までにBBQ用の食料などの買い出しを済ませていました。24日早朝のTVで千葉県地方は「道路の冠水などが心配」とのニュースを受け、急遽中止を決めました。

雨は明け方で上がり、日中は芋ほり日和になり…残念!!

・千葉県支部報告会兼意見交換会

コロナ前は例年6月に実施していましたが、コロナ感染の状況などを考慮し、10月9日(日)に船橋市勤労市民センターで実施しました。

11名と、ちょっとさみしい参加人数でしたが、コロナ禍を考えれば仕方ない感じがします。そのような中、校友会から、支部組織部副部長 櫻井良尚様に出席していただきました。櫻井様ありがとうございました。



意見交換会出席の方々(敬称略)

上段左から 成田、長谷川、大日向、古澤、植木、井坂
下段左から 新海、櫻井、横田、内山、東

・校友会全国大会・大分大会

2年間延期されていましたが校友会全国大会・大分大会が11月12日(土)、13日(日)に開催されました。千葉県支部からは長谷川さんが出席しました。

この時の様子を本会報に寄稿していただきました。

・校友会2023新春の集い

3年ぶりに新宿で、2023年1月8日、12時から「Y's新宿エステック情報ビル」4階で開催されました。参加人員は総勢147名と規模を縮小しての開催となりました。

千葉県支部からは植木さん、長谷川さん、新海の代議員3名が出席しました。

校歌、学園歌の斉唱、理事の挨拶、来賓紹介、その後、歓談、抽選会などがありました。

・千葉県支部新年会&幹事会

2023年1月28日(土)、2年ぶりの「千葉県支部新年会」を開催しました。

出席者は12名。コロナ前に比べ、約半分の出席率でさみしいかぎりです。出席された方に感謝します。「新年会」に先立ち「幹事会」が行われました。

2年ぶりということで、2020、2021、2022年工学院大学を卒業した千葉県在住者にはがきで「新年会」開催の連絡をしましたが、欠席の返事すらありませんでした。校友会に関心が薄いのでしょうか?とても残念です。

また、コロナ感染が怖いので、欠席という高齢の方からの知らせを受け、早くコロナの終息を願うばかりでした。約2時間の宴会もあっという間に過ぎ、2次会へと流れていきました。



新年会出席者(敬称略)

上段左から 成田、吉村、新井、長谷川、井坂、東、古澤
下段左から 小林、内山、大日向、新海、植木

・千葉県支部ゴルフコンペ。居合抜き体験会&忘年会

コロナの第八波の兆しがあり、中止にしました。

2. 全国支部長会の報告 (新海 昌美)

前回(2021年度)はリモートで2回実施しましたが、今年度は1月29日(日)13時30分~15時30分、リモートで1回かぎりの開催となりました。

議題は以下の通りです。

1. 田野邊校友会会長挨拶
2. 後藤理事長挨拶
3. 伊藤学長挨拶
4. 中野中学高校校長挨拶
5. 新支部長の紹介
6. 大分大会実施報告、高知大会の紹介
7. ホームカミングフェスの実施紹介
8. 新春の集い実施報告
9. 前回頂いたご意見の進捗
10. 支部活動の紹介
11. 新ホームページの紹介
12. その他、連絡事項

5. 新支部長の紹介

愛媛県支部長 高澤一行様、福岡県支部長 吉川靖彦様がそれぞれ紹介され、挨拶をおこないました。

6. 大分大会実施報告、高知大会の紹介

大分大会の実施報告では大分県支部長 前田博行様が

説明されました。

大分大会来賓の挨拶に続いて珍しく貴重なものが紹介されました。それは工学院大学の前身である工手学校の第一回卒業証書の紹介でした。詳しくは本会報、長谷川さんの寄稿文を御覧ください。また、次回全国大会・高知大会の紹介を高知県支部長 長崎孝彦様が行いました。高知大会は2024年11月9日(土)、10日(日)に実施予定です。

7. ホームcomingフェス (ホームcomingデーから名称変更)

工学院大学 寄付金・校友会担当部長 長田仁様から紹介。

8. 新春の集い実施報告

校友会 同窓会組織部部长 宮木義雄様から紹介がありました。

10. 支部活動報告では「在校生・校友との交流」について、4つの支部から報告がありました。

- ①秋田県大潟村で行われた大学ソーラーカーレースの応援様様を、秋田県支部長佐々木修様から報告がありました。
- ②高校のソーラーカーレースが和歌山県で開催され、和歌山県支部長 南部高史様から報告がありました。
- ③長野デザインウィーク・LED教室の報告は長野県支部長 金井浩三様が報告されました。
- ④最後に茨城県支部長 石川啓司様から「そば打ち実施」の報告がありました。

11. 新ホームページの紹介

校友会広報部部长 高木雅之様が校友会HPにある「支部掲示板」サーバーの老朽化に伴い更新したことの報告がありました。千葉県支部でもこの支部掲示板を利用して、事業計画や、事業実施の報告などを行っています。

千葉県支部の皆様、校友会HP内の「支部掲示板」も検索してください。

3. 校友会社員総会の報告 (植木 幸裕)

令和4年度の第10回定時社員総会は2022年5月29日(日)、Zoomを利用したオンラインでの開催となった。来賓として後藤治理事長はじめ、伊藤慎一郎学長、中野由章附属中学校長にもオンラインでご参加いただき、ご挨拶を頂戴した。昨年に引き続いてオンライン開催ということもあり、大きなトラブルも無く、無事に終了した。

代議員数116名中、総会出席者61名、書面による議決権行使者47名、欠席者8名で、参加者数が過半数(59名)を超えている為、社員総会は成立した。

【審議事項 第1号議案】 令和3年度事業報告と決算書承認の件

令和3年度の監査報告が行われ、会計処理及び理事の職務執行状況共に問題ないとの報告が監事よりあり、事業報告が小澤総務部長から、決算報告が佐藤財務部長から行われ、賛成101(当日発表102)、反対0、棄権3、未回答3で承認された。

【審議事項 第2号議案】 定款一部改訂の承認の件

主な改訂箇所は、代議員のことを定めた第33条に、代議員の使命及び役割を明確にするために、「代議員は、会員の意見及び要望を広く収集しそれらを自らの判断に従って校友会活動に反映させるだけでなく、自らの所信をも実現すべく努めなければならない。」との条項を追加、さらに、代議員選挙にかかる財政負担も減少し、有能な人材を早く登用できるようにしたいとの思惑から、代議員選挙を4年に1度から2年に1度に変更する旨、小澤総務部長より説明があり、代議員の任期が2年に短縮されることに対する疑問や反対する意見も出されたが、2/3以上の賛成(賛成87、反対15、棄権4、未回答2)で承認された。

これまでの社員総会の決議で、反対が15名も出たのは異例のことで、前回の定款改訂で2年から4年に変更したばかりで、その任期がまだ終わっていない段階で、元に戻すことの是非が問われた結果が、これだけ多くの反対者数に現れたものと思われる。

【報告事項 第1号報告】 令和4年度事業計画と予算の件
令和4年度はコロナ禍が終息することを前提とした事業計画及び予算報告が行われた。

【報告事項 第2号報告】 同窓会長及び支部長交代の件
化学系同窓会長は古川和弥氏から志村豊氏へ、専門学校同窓会長は相澤良夫氏から平山徹夫氏への交代報告がされた。地域支部においては、長崎県支部長田浦清氏、愛媛県支部長高澤一行氏への支部長交代の報告がされた。

【報告事項 第3号報告】 全国大会・大分大会及び高知大会の件

コロナ禍で再々延期となっている大分大会を、感染防止対策を万全にして今年11/12(土)、13(日)に別府市のB-Con Plaza(別府国際コンベンションセンター)で開催する旨の報告と、2年後に開催予定の高知大会についての説明がなされた。

【報告事項 第4号報告】 学生支援の件

昨年度大活躍した4つの学生プロジェクト、学生フォーミュラ(KRT工学院大学レーシングチーム)、鳥人間(Birdman Project Wendy)、工学院大学ソーラーチーム、KRP(工学院大学ロボットプロジェクト)の活躍ぶりが報告された。

【報告事項 第5号報告】 会員表彰の件

2021年春の叙勲

旭日小綬章 山田勝文様 1974年工業化学科卒業
長野県諏訪市長を1999年から4期歴任された。

山田養蜂場を創業、現在、山田養蜂場会長。(登録商標「信州高原はちみつ」を販売)

工学院大学の学生プロジェクト「みつばちプロジェクト」の指導に当たっている。

2021年度工学院大学校友会女性躍進賞

豊川裕子様 1970年建築学科卒業

長谷川真弓様 2000年建築学科卒業

の両名が受賞された。

また、2021年度の優秀学生・生徒26名を表彰したことが報告された

令和4年度会計報告及び令和5年度予算(案)

会計年度期間：4月1日より翌年の3月31日迄

収入の部

| 科 目 | 4年度収支予算 | 4年度収支決算 | 5年度収支予算案 |
|-------------|------------------|----------------|------------------|
| 前年度繰越金 | 551,203 | 551,203 | 547,240 |
| 年会費 | 165,000 | 111,000 | 144,000 |
| 報告会兼意見交換会会費 | 125,000 | 55,000 | 100,000 |
| 新年会会費 | 150,000 | 72,000 | 150,000 |
| 忘年会会費 | 28,000 | 0 | 28,000 |
| 支部行事開催参加費 | 102,000 | 0 | 102,000 |
| 役員及び各種会費 | 0 | 0 | 0 |
| 支部割戻金 | 90,000 | 92,000 | 92,000 |
| 祝儀 | 0 | 0 | 0 |
| 寄付金 | 60,000 | 64,000 | 70,000 |
| 雑収入 | 9,500 | 35,335 | 9,500 |
| 受取利息 | 0 | 0 | 0 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合計 | 1,280,703 | 980,538 | 1,242,740 |

支出の部

| 科 目 | 4年度収支予算 | 4年度収支決算 | 5年度収支予算案 |
|------------------|------------------|----------------|------------------|
| 報告会兼意見交換会会費 | 130,000 | 47,985 | 110,000 |
| 忘新年会費 | 178,000 | 72,000 | 178,000 |
| 支部行事費(芋掘り&BBQ大会) | 120,000 | 49,082 | 120,000 |
| 役員会費(会場使用料等) | 5,000 | 2,340 | 5,160 |
| 広告・渉外費 | 30,000 | 30,000 | 0 |
| 他支部参加費 | 15,000 | 0 | 15,000 |
| 地区懇談会補助費 | 0 | 0 | 0 |
| 同好会補助費 | | 0 | |
| 会報作成費 | 132,000 | 148,500 | 154,000 |
| 通信費(案内状) | 90,000 | 83,391 | 85,000 |
| 交通費 | 12,000 | 0 | 12,000 |
| 文具費 | 5,000 | 0 | 36,000 |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 |
| 予備費 | 12,500 | 0 | 10,000 |
| 小計 | 729,500 | 433,298 | 725,160 |
| 次期繰越金 | 732,771 | 547,240 | 517,580 |
| 合計 | 1,462,271 | 980,538 | 1,242,740 |

財産目録

令和5年3月31日現在

| | | |
|------|------------|---------|
| 預貯金 | ゆうちょ銀行普通預金 | 547,240 |
| | ゆうちょ銀行振替口座 | 0 |
| 現金 | | 0 |
| 資産合計 | | 547,240 |

会計監査報告書

令和4年度(令和4年4月1日より令和5年3月31日迄)の収支決算書及び令和5年3月31日現在の財産目録につき関係書類等により監査したところ適正であるものと認める。

令和5年4月6日

会計監査 成田 忠志

令和4年度事業活動報告(概要)

- 4月 4日(月) 令和3年度会計監査
- 5月 24日(火) 千葉県支部会報26号発行
- 5月 29日(日) 第10回定時社員総会 (リモートにて実施)
- 9月 24日(土) 芋ほり&BBQ大会 台風の為、中止
- 10月 9日(日) 第67回千葉県支部報告会兼意見交換会と懇親会
報告会兼意見交換会 船橋市勤労市民センター
懇親会 土風炉(船橋市)
- 11月12,13日 校友会全国大会・大分大会
- 11月 27日(日) 千葉県支部ゴルフコンペ
中止(コロナ感染症第八波の為)
- 12月 初旬 居合抜き体験会&忘年会
中止(コロナ感染症第八波の為)
- 1月 8日(日) 校友会新春の集い
- 1月 28日(土) 千葉県支部新年会&幹事会
鯔割烹みどり(西千葉)
- 1月 29日(日) 全国支部長会(リモートにて実施)

令和5年度事業計画(案)

- 4月 6日(木) 千葉県支部 令和4年度会計監査
- 5月 19日(金) 千葉県支部会報27号発行
- 6月 3日(土) 第68回千葉県支部報告会兼意見交換会&懇親会
報告会兼意見交換会 船橋市勤労市民センター
懇親会 土風炉(船橋市)
- 10月 初旬 千葉県支部 恒例「芋ほり&BBQ 大会」
- 11月 千葉県支部ゴルフコンペ
- 12月 初旬 千葉県支部 「居合抜き体験会&忘年会」
- 1月 7日(日) 校友会新春の集い2024
- 1月 27日(土) 千葉県支部新年会
鯔割烹みどり(西千葉)

令和5年度(2023年度)は新型コロナウイルス感染症が終息し、全ての計画が実施されることを祈っています。

第19回校友会全国大会に参加して

(電気工学科・1971卒) 長谷川 努



この度、北海道大会(2017年)から5年振りに開催された大分大会に参加して来ましたので、感想文を書きました。この大会は、2022年11月12日、13日に開かれました。

今回の大会は、全国的なコロナ感染拡大の影響で2年連続して中止を余儀なくされ5年ぶりの待望の開催となり大いに期待されました。2年間も大会が流れたにも関わらず、大会を成功させた大会実行委員会の皆様の大変なご苦労とご努力に感謝申し上げます。

又、今回の大会に北海道から沖縄まで、全国各地から駆けつけてくれた約140名の学友の人数の多さに感動し校友会の結束の強さを実感しました。

さて、私の参加は北海道に続き2回目となります。「湯煙の町別府・湯布院」が頭の中を駆け巡り、『大会に参加して、多くの温泉に入って、思う存分麦焼酎をもう!』と思いを巡らせました。しかし、残念ながら現実はその甘くなく、温泉に一度も入る事なくツアーの終わりを迎えてしまいました。その辺のところを紹介したいと思います。私の無念さを読み取ってください

宿と飛行機の手配は、地元の旅行代理店にお願いしました。チケットが確定したのは何と大会の1週間前でした。何度もメールでやり取りした「イライラさ」を分かってください!? 大会当日、代理店の担当者へ聞いたと、その頃はコロナがやや落ち着いて旅行が増え、その対応でてんでこ舞いの所に校友会の団体客からの依頼が殺到し、“(てんでこ舞い)?”だったとの事でした。

大分空港から別府国際コンベンションセンターに直行し、大会が始まりました。大会は、大会実行委員長、大学理事長、他の挨拶が始まり、その後、別府市長の歓迎の挨拶がありました。別府は日本一の湧出量・源泉数を誇り、自然景観と観光資源に恵まれた所と紹介されました。別府の紹介が進むにつれ、私の悲願はパンパンに膨らみ、温泉と麦焼酎で頭の中が一杯になっていました。校歌斉唱と記念写真の撮影があり、九州電力地熱発電調査グループの千手様から“九州電力グループの地熱発電の取り組み”について記念講演がありました。

次に、工手学校第一回卒業生、土木科卒業の「敷田氏」の卒業證書が披露されました。この卒業證書は昨年3月に大分県中津市の小野維平(これひら)様から校友会事務局に、自宅の蔵を壊したときに親族の卒業證書や写真、駅舎の図面などが出てきたので見てもらいたいと電話があったそうです。その卒業證書は小野様の奥様、博子様のお祖父に当たる“敷田熊太(くまた)氏(慶応2年9月生)の證書で、祖父が築地に開校したばかりの工手学校土木科に入学し、明治22年7月7日に第一回生として卒業されたことを聞いていたとの事で、小野様と何回か連絡を取っていたところ、ご厚意によりその卒業證書を工学院大学に贈呈頂けることになったと報告がありました。その時会場では自分の卒業證書が今どうなっているのか、方々でどよめきが聞こえていました。

敷田氏は技術者として山陽鉄道に入られ、神戸から下関間の鉄道の開設に従事され、起工から完成まで土木技師として鉄

道建設や多くの駅舎建設で活躍されたとのことです。

次に大分県立由布高等学校“郷土芸能部”による、神楽の舞が披露されました。演目は『古事記』や『日本書紀』の中で語られている神話を題材にした舞が多く、地球を作り、天と地が開かれ、世界が誕生するところから始まっています。神楽を舞った女子部員は、この神楽を舞う為に四国から越境入学して来たと言いました。本当に素晴らしい舞でした。

その後、祝賀レセプションが始まり、開会の挨拶、歓迎の挨拶、来賓の祝辞、乾杯が行なわれた「ようす」が、なぜ「ようす」と書いたかという、その頃には酒が大量に入っていてよく覚えていないのです。レセプションは22時まで続き、大いに盛り上がりました。その後はそれぞれ別府の町を散策し、あつという間に一日目が終わってしまいました。「夜はゆっくり温泉に入ってという思いも忘れ去ってしまい、『明日はたっぷり温泉があるさ!』そんな気持ちでした。

次の日は、バスツアーで二つのコースがありました。

- ①は“八丁原(はっちょうばら)地熱発電所をめぐるコース”
- ②は“別府地獄巡り、温泉散策のコース”

私は迷いなく②のコースを選びました。しかし、完全に誤解していました。温泉に入るコースと思いついていました。パンフレットを良く見ると温泉に入るとはどこにも書いてありませんでした。『残念!!』別府竹細工会館、海地獄、かまど地獄などを廻っただけで、温泉に入る事は出来ませんでした。『別府竹細工会館、海地獄、かまど地獄が良くないとは言っていないヨ!なんで!別府に来て温泉に入れないんだよ!』

今回の全国大会はあつという間に終わってしまいました。別府、湯布院の素晴らしさを堪能してきました。次に来る時は、絶対に絶対に温泉に入り、麦焼酎を飲んでゆっくりしたいと思っています。

次回の大会は高知県です。“司牡丹”を飲みながら坂本龍馬と肩を組み、日本の将来を語りあうなんて良いんじゃないですか。仲間との楽しい思い出を作ってみてはいかがでしょうか。



馬で世界を観て廻る・アイスランド編



(化学工学科・1969卒) 岩本 博行

昨年の会報No.26では、南米ペルーでの乗馬体験を寄稿しましたが、今回はイギリスの北にある、アイスランドでの体験をご紹介します。

2006年7月18日、アイスランドの首都レイキャビックに降り立った。夜の9時だというのにまだ明るい。日本人ツアーガイドの青木氏が出迎えてくれた。昨日到着している他のメンバーは夕食中だという。街を散策できるのは今日だけなので、ホテルで荷物を降ろして、早々に街に出た。いわゆるネオン街のような繁華街も、大きなビルも見当たらない。コンパクトにまとまった清楚な街であった。

翌日の朝食時に先着の馬仲間と顔をあわせた。千葉の同じ乗馬クラブの女性三人組で、男性が来てくれたので大歓迎してくれた。実は、関西の乗馬クラブの女性三人組には屈強な男性がついており、どうも引け目を感じて心細かったようである。

車で1時間半ほど移動。馬を提供してくれるHestar牧場に到着。いよいよ馬とご対面。やや小ぶりだが、寒い地方の馬特有のふさふさのたてがみとしっぽが温かそう。ここでドイツ人グループも加わり、ガイド、予備の空馬とわれわれ一行は、7泊8日の乗馬ツアーへと旅立った。

1泊目の宿へは約50kmの行程。途中、大きな滝を見下ろす丘で休憩。はるか向こうの道路を観光バスが走っているのが見えた。通常の観光では近寄れない場所を、馬は歩いていることを実感した。宿はいわゆる山小屋で、バンクベッ

ド(蚕棚のような板敷ベッド)に寝袋で眠る。食事も若いガイドの手作りだ。8日間、毎日6~7時間、馬に揺られ、山小屋を渡り歩く。馬の駐馬場も毎回手作りだ。電気柵を張り巡らせて、一晚馬に休んでもらう。山小屋は、われわれのツアーだけの貸し切りの場合もあるが、普通のバックパッカーと同宿の所もある。

バックパッカーと同宿した宿を出発して、しばらく行くと、バックパッカー達が川の両岸でたむろしている。「どうしたんだらう?」と思ったが、彼らは川を渡るために靴を脱ぎ、渡っては履き直していたのだ。そんな彼らを尻目に、我ら馬の一行は、バシャバシャと川を渡り進んでいく。これも乗馬ツアーならではの軽快さである。



川を渡って

アイスランドは火山の島。大きな木や森林はどこにも見当たらない。山は灰色、氷河も火山灰で薄汚れていて、美しい白い氷河とはとても言い難い。大地は苔のような草がわずかに生えているだけだが、所々でふさふさの草原にも出会えた。

そういう所では、馬を休ませて人間も昼寝。まさに「天に近い国の極楽時間」だった。馬主の若い女性オーナーは、寝転ぶ馬の柔らかい腹を枕に、馬たちに囲まれて幸せそうなひと時を過ごしていた。

一方また、ゴロゴロの溶岩台地を馬は躊躇なく進む。馬一頭がようやく抜けられるような切り立った溶岩の隙間を抜けると、日本の尾瀬ヶ原のような景色が広がっていた。し



ひたすら今宵の宿泊地へ



人も馬も草原でほっと一息

ばしの休息で景色を楽しみ、さて出発。なんとその美しい池塘(チトウ)地帯を、バシャバシャと踏み進んで行く。「えっ、いいのかよ?」日本人の感覚だと、ビックリ!!

なかなか宿に到着しない日もあった。道に映る自分と馬の影がやけに長い。時計を見ると午後9時を過ぎていた。こんな時間まで馬に跨っていることは、日本ではまずないことだ。北緯64度を実感させられた日だった。

何日目であったろうか。真っ黒い火山灰大地を進んでいる時、奇妙な光景が目飛び込んできた。同じサイズの石が、等間隔で延々と続いている。まるで、造園師が作業したような正確さだ。どうやら、風による帚(ホウキ)現象のようである。小さな石は強風で吹き飛ばされ、強風に耐えられた大きい石だけが、きれいに残っているのだ。こんな事からも、冬季の厳しさが窺い知れる。

また、別の日には目の前に露天風呂のある山小屋に泊まった。川を堰き止めただけの無料露天風呂だ。いろいろな国籍の人々が寛ぎ楽しんでいた。男女混浴である。残念ながら、水着着用だった。熱い温泉と冷たい川の水が程よく混ざって、人々を癒してくれているのだ。火山は厳しさだけでなく、一方でこのような優しさも与えてくれる。



雪渓地帯を目指して

また、こんな事故もあった。ドイツ人のグループは、若い女性二人と高齢の女性一人。その高齢の女性が落馬して、足元の石ころで脛の上を裂傷してしまった。救急車など呼べる場所ではない。山小屋は間近だったが、医務室があるような施設ではない。医療器具だけはあったので、ドイツ人の男性かと見間違ふほど、背の高いボーイッシュな女性が縫合手術を行った。なんと、彼女は外科医だったのだ。お陰で、ツアーは重苦しい雰囲気にならず続行することができた。最終日には、拔糸も施してあげていた。彼女らドイツ人は、以前からの知り合いではなく、このツアーで初めて一緒になったメンバーだという。仲間と一緒になければ、海外ツアーにも行かれない日本人とつい比較してしまう。こんなところにも欧州人の独立独歩の気概を実感した。



台地は苔が生えているような

最終宿泊先で、ようやくまともなホテルにチェックイン。寝袋から解放され、柔らかいベッドで深い眠りについた。最終日は聳え立つ崖から幾重にも流れ落ちる滝を見ながら、広い平坦な道を、アイスランドの馬特有の歩き方、トルトで軽快に進んだ。

トルト走行というのは、走っても馬の四肢のどれかが常に地面に着いているので、上下動のない走行で、乗馬中の身体の揺れの少ない気持ちのよい乗り方です。オートバイのハーレーダビッドソンは、このトルト走行の乗り心地を再現するために作られたマシンだそうです。ダッダダッというあのマシン音、確かにそんな感じがする馬上でした。

今回は、北緯64~66度の火山の国での体験寄稿でした。暖かい季節でしたので、冬季の厳しさは体験できませんでしたが、豊かで様々な自然を味わうことができた旅でした。皆様もぜひ一度訪問してみてください。

来園者も動物たちも幸せになれる動物園



(電気工学科電気工学コース・1991卒) 新井 英伸

いきなりですがみなさんは動物園っていうとどんな思い出があるでしょうか。幼稚園や小学校のころ、みんなと遠足で来たなあ〜とか、家族と一緒に園内を廻って、ご飯を食べたなあ〜などといった楽しい思い出があるのではないかなと思います。でも、大人になったら意外と足が遠のいて来なくなるのも動物園ですよ(泣!!)。

そんな動物園について皆さんに少しでも興味を持って頂けたらと思い、今回寄稿させていただきました。さて、皆さんは動物園で働いている人と言うと飼育員を思い浮かべるでしょうが、意外と多くの職種の人たちが働いているのが動物園なのです。と話している私も然りで、工学院大学の電気工学科電気工学コースを1991年に卒業して現在は恩賜上野動物園の施設係と言う部署で勤務しています。

電気工学科電気工学コースを出て動物園?と思われるでしょうが、動物園には様々な動物たちがいてその動物たちが安心して暮らしていける環境作りとそれらの施設を維持管理していくのも私たち施設係の仕事となります。そして、何よりも毎日多くの人達がここ上野動物園に来園され楽しい思い出が作れるよう、動物舎だけでなく「様々な施設・樹木や草花・園路」などの整備も行なっています。

そんな施設係の仕事について、今回その一部を紹介したいと思います。まず紹介するのはアザラシ、アシカやシロクマといった水生動物たちの飼育です。特にアザラシ、アシカが住める環境を維持していくためには、常に流れていて濁りのないきれいな水を作らなければなりません。その水を作る為の設備が園路の下に敷設されています。ここには1時間に約246tもの水をろ過循環出来る設備があり、これによりアザラシやアシカのプールの260tの水とシロクマのプールの170tの水をきれいにしており、これらの設備を24時間365日、常に最適状態で運転できるよう毎日点検を行なっています。

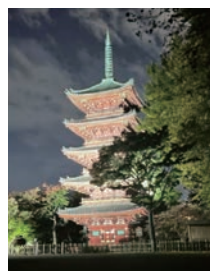


【ろ過循環機械室】

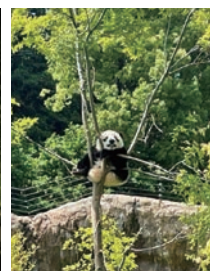
そして上野動物園には寛永16年(1639年)に火災で焼失し同年に再建された、重要文化財でもある五重塔があります。この400年前に建立された文化財を災害から守るといっ

た役目やこの歴史的建造物をもっと多くの人に観て頂きたいという観点からライトアップを行なっています。

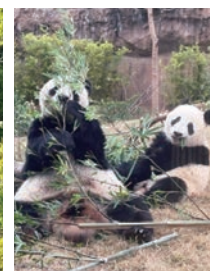
上野動物園と言えば令和4年で初来日から50周年を迎えたジャイアントパンダ。令和5年1月現在、2月に中国に返還されるシャンシャンを含め5頭のパンダを飼育しています。パンダは意外と暑さに弱いため、空調機器の維持管理が重要です。そして忘れてはいけないのが、パンダの食料である笹や竹の保存。パンダ舎の中には常に食料を新鮮に保つためのミストを完備した専用の貯蔵庫があります。これは他の動物たちにも言える事ですが、来園者がよりよく観察でき、さらにパンダが隠れ家や休息にも使えるように、放飼場内の樹木の剪定も大切な仕事です。



【五重塔】

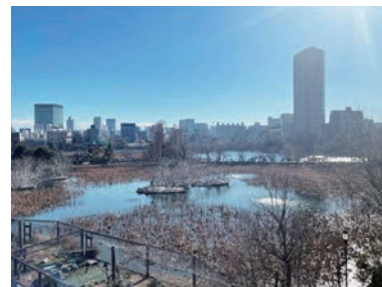


【木登りパンダ】



【親子パンダ】

更に、もうひとつ忘れてはいけないのが約11万㎡の広さを持つ不忍池。この池は3つの池からなり、それぞれ「蓮池・ポート池・鶴池」と呼ばれています。その中で動物園が管理する鶴池には約2万t以上の水があり、遠い昔この場所は海だったことから少し塩っぱいのが特徴です。この池の落葉や汚泥を取り除き脱臭し、この池に暮らす生き物たちが住みやすい環境を整えるため、大規模な設備で池の浄化を行なっています。その結果、都会の真ん中にあるこの池に一年を通して様々な鳥や生き物が訪れ、繁殖を行なっています。7月には蓮の花が満開となりとてもきれいな景観がのぞめ、来園された人々が楽しめる環境となっています。



【不忍池；鶴池】

取り留めもなく書かせていただきましたが、みなさん、是非昔の記憶を思い出すために上野動物園へ足を運んでもらえると嬉しいです。

母校の近況

(資料提供：学校法人工学院大学総合企画部広報課 / 文責：機械工学科1975年卒 植木幸裕)

【学園創立135周年とホームカミングフェス開催】

2022年(令和4年)10月31日、新宿キャンパスにて、学園創立135周年記念表彰式が挙行されました。

名誉賛助員の称号贈呈のほか、教育・研究・業務推進において顕著な成果を評価する「学園表彰」はじめ、大学表彰、成績優秀表彰、校友女性躍進賞表彰など44名、4団体が表彰されました。

また、2日後の11月2日には、従来のホームカミングデーを

改称し、お祭り気分も盛り込んだホームカミングフェス(HCF)として、新宿キャンパスで開催されました。

今回は、母校の近況コーナーではありますがHCFで創立135周年記念のために編集された「工学院大学135年の軌跡」特集ムービーから、135年の変遷を経て現在に至った我が母校を振り返ってみたいと思います。

【工学院大学135年の軌跡】

1887年(明治20年)10月31日

文明開化が到来した明治時代の日本では「近代国家の発展には工業化が不可欠である」と考えられ、工業立国を推し進める優れた実践的技術者が求められていた。時代の要請に応じ、当時の帝国大学総長であった渡邊洪基は、工科大学教授の辰野金吾の賛同を得て、**日本初の本格的私立工業学校**の設立をめざした。

明治20年10月31日、工手学校設立協議会が開催され、出席した帝国大学教員14名が発起人となり本学のルーツとなる「工手学校」の設立を決議。本学では、この日を創立記念日と定めている。

しかし、実際に開校式を挙げ、授業を開始したのは、工手学校設立認可が下りた翌年2月で、特選管理長 渡邊洪基、校長中村貞吉、土木、機械、電工、造家、造船、採鉱、冶金、製造舎密の8学科、修業年限は本科1年、予科半年として京橋区南小田原町(現在の築地)の新校舎で夜間学校としてスタートした。入学者数は競争倍率3.5倍を勝ち抜いた228名であった。

1896(明治29年)2月9日

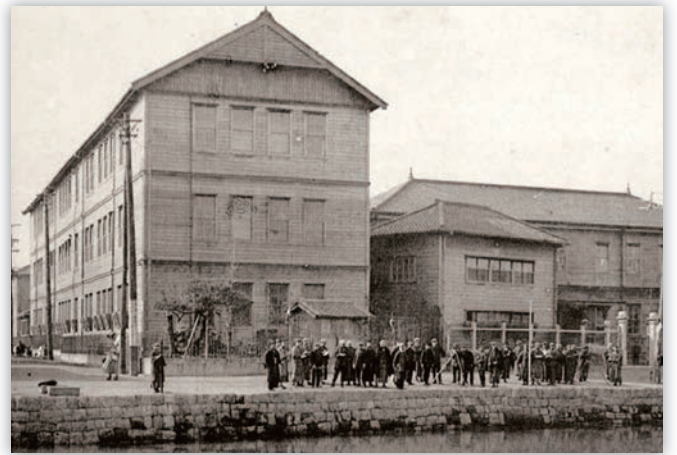
開校して僅か8年後の明治29年2月9日の深夜、第14回卒業式当夜に築地校舎焼失するも、素早い復興策が掲げられ、同年3月2日には芝にある寺院を仮校舎として授業を再開。この罹災の件は明治天皇のお耳に達し、同年4月10日「おほしめし今般 工手学校思召ヲ以テ金五百円下賜候事かしそうこうこと」の報が宮内庁より手渡された。後にも先にも皇室より御下賜金を賜った学校は我が母校だけである。

1913(大正2年)11月

明治45年に創立25周年を迎えたが、明治天皇崩御により式典を翌大正2年11月に延期して挙行した。この時、本学開校にも尽力された渋沢栄一が来賓として招かれ、聴衆に感銘を与える祝辞を述べている。

1923(大正12年)9月1日

大正12年9月1日に発生した関東大震災(M7.9)では、揺れによる校舎の被害は少なかったものの、築地本願寺など



大正期の築地校舎

と共に延焼を免れず、2度目の校舎焼失となった。校舎全てを失った工手学校は授業再開の為に仮校舎探しに奔走し、震災被害が少なかった新宿に校舎のある日本中学(現日本学園中学校・高等学校)の教室を借用して、大震災の2か月後には新宿仮校舎(現 新宿キャンパス付近)で、授業を再開した。

1928(昭和3年)4月

震災前より、築地校舎は既に手狭であった為、将来にわたって有益な工学人材を輩出する為により広い敷地に校舎を建てるべく30か所以上もの候補地の中から、現在の新宿キャンパスが位置する、東京府豊多摩郡淀橋町が選ばれた。

当時の西新宿は淀橋浄水場のほかに、教育機関がいくつか立地し、交通機関の乗り入れも多いことから、その後の発展が望まれていた。卒業生や財界からの寄付に支えられ、昭和3年4月、震災の経験を活かした耐震、耐火に留意



完成した淀橋(新宿)校舎



昭和28年頃の淀橋(新宿)校舎

高齢者川柳

熱上げた

昔の彼女
今フツウ

母校の近況

した鉄筋コンクリート3階建て643坪で、当時の学校建築としては大きなスケールの校舎が落成した。そして同年6月には、工手学校から工学院へ校名が改称され、新たな道に踏み出した。

1945 (昭和20年) 3月10日

昭和20年3月10日の東京大空襲で本学は被災を免れたものの、5月26日の空襲では、同窓会館と実験室を焼失するも、鉄筋コンクリート造の本館は懸命の消火活動のもと戦火をくぐり抜けた。新宿付近では、本校のほか、2、3の建物を残すのみで、周辺一帯は焼け野原となった。当時、勤労働員で学生は少なく、校舎の一部は、軍の防空指令部、軍隊駐屯、物資集積所として利用され、焼け出された近隣罹災者の避難も受け入れた。

1949 (昭和24年)

戦後、工場に動員されていた学生が徐々に復帰し、終戦からわずか1カ月後の9月中旬には授業再開に至っている。

昭和22年には、学制改革が行われ、新しい教育システムである6・3・3・4制に沿って、当時の設置校である工学院本科、工業専門学校、工業学校が、それぞれ新学制に改められた。戦後の混乱や資金的な課題など、大学開設に懸けた関係者の努力が実り、昭和24年、旧制工業専門学校は新制大学へと昇格、工学部機械工学科、工業化学科の2学科で、第1部(昼)、第2部(夜)を有する4年制の新制工学院大学が開学した。また、工学院中学校、工学院高等学校を工学院大学中学校、工学院大学高等学校と改め、工学院本科を工学院専修学校と改称した。

昭和30年には電気工学科、建築学科が設置され新宿校舎の増築増床が図られた。



昭和36年に竣工した8階建新館校舎の淀橋(新宿)校舎
(後ろには淀橋浄水場が見える)

1963 (昭和38年)

現在では20を超える大学がキャンパスを構える学園都市に変貌した八王子市に、郊外型キャンパスの先駆けとし

て八王子校舎が昭和38年に開設された。95年前に新宿、60年前には先鞭を切って八王子に進出した関係者の先見の明の鋭さには驚かされる。

昭和39年、工学院大学修士課程(機械工学専攻、工業化学専攻、電気工学専攻、建築学専攻)を設置。続いて昭和41年には、私立工科系単科大学で初めて博士課程(機械工学専攻、工業化学専攻、電気工学専攻、建築学専攻)を設置した。博士課程の設置は、その大学が十分な施設・設備と研究能力の高い優秀な教授陣容を有することが証明されたことを意味すると初代学長 野口尚一は回想している。

昭和40年代に社会現象になった学生運動は、本学にも影響を及ぼし、全学闘争委員会が八王子校舎1号館をバリケード封鎖するなど過激な交渉であったが、大学側との対話もたれ、大きなけが人もなく封鎖は解除された。学生による無期限ストライキが実施されたこともあったが、忍耐強く対話が続けられたことにより徐々に活動は沈静化し、およそ10年の時を経て大学内は平穏を取り戻した。

昭和30年代から50年代にかけては、学科・コースの新設にともなう学生数の増加、キャンパスの拡充・教育研究設備の充実化が着実に進められ、現在の工学院大学の礎を築いた時代となった。



昭和40年頃の八王子校舎



昭和60年代の八王子校舎

1989 (平成元年)

新宿駅西口周辺は、戦前の移転当時とは環境が様変わりし、淀橋浄水場の跡地利用の新宿副都心計画がプランされる中、そのど真ん中に位置する本学は、都心部大学の郊外移転を推進する当時の政府から移転の決断を迫られていた。

度重なる議論と検討の中、当時の学長、伊藤^{ていじ}鄭爾学長は「都心型学園」というキーワードのもとで、この新宿の地にキャンパスがあることの重要性を訴え、「学園だけがキャンパスではない、新宿全体がキャンパスである」と捉え、地の利を活かしたコンセプトを創出した。昭和56年に都市計画の専門家である高山英華氏が理事長に着任し、新宿副都心にある大学として、周辺の街並みと同様に高層ビル型の

キャンパスとして再開発を目指す決断をした

228名の入学生でスタートした工手学校は100年の歴史を経て、約8,000人の学生・生徒が在籍し、5万人以上の卒業生を輩出する学園に成長した。創立来最大事業となる新宿キャンパス高層ビルの新築工事は、仮転居を伴わない旧校舎で授業を行いながらの工事が進められ、平成元年、大学棟（地上29階、地下6階）が竣工、日本初の超高層ビルの大学校舎となる新宿キャンパスが誕生した。地上高133mは大学単独の施設では日本一を誇り、新聞紙面でも



新宿校舎の今

話題となった。平成4年、中層棟（8階建）とオフィス棟エステック情報ビル（28階建）が竣工、平成7年にはエステック広場が完成し、現在の新宿キャンパスの姿となった。

かつて「日本初の高層ビルキャンパス」と注目を浴びた新宿キャンパスも竣工から四半世紀以上が経ち、キャンパスの顔となる入口フロアの改装が行われた。2015年には新宿駅から続く地下通路直結の地下1階ラウンジ、2020年には1階新宿アトリウムをリニューアル。新宿アトリウムは、常設では日本初となる稼働式の壁、キネティックウォールを備えた多目的学園ホールへと生まれ変わり、教育、式典、学術利用の他、音楽、アート活動まで幅広く利用されている。いずれの改装工事にも、意匠設計や空間演出に本学建築学部教員が関わり、時代に合わせた変化を遂げている。

2020年代、新宿駅西口の再開発が進む中、新宿キャンパスでは創立150周年に向けたさらなるリニューアル計画が始動しており、建学時から変わらない「工」の精神のもと、サステナブルな成長を続け、次世代を担うモノづくり人材を輩出し続ける我が母校の発展を陰ながら支え、惜しみない支援をしていきたいと思う。

学園創立135周年に当たり、この「日本初」や「日本一」との形容詞が付くことが多い、我が工学院大学135年の軌跡を追ってみた。

高齢者川柳とわけのわからぬ我柳コーナー

春くれば 戦車の次は 戦闘機
 夢破れ 今朝の世界は 戦ごっこ
 園児見て じいばあ遠足 団体旅行
 立ち向かい ガンに必勝 確信す
 ウクライナ 民主主義薬 ありありと
 頑張ろう 民主主義だよ ウクライナ
 おぼっちゃん 妻ときに云う 無理はない
 「男なら」 死語にするなら 惜し過ぎる
 趣味を持つ？ 山ほどあります 好きな酒味
 近頃は 気にせず座る シルバー席
 医師の顔 インターネットで 確認し
 二世帯を 建てたが嫁が 来ぬ悲哀
 日当たりの 良い墓地買っても 石の中
 あのオヤジ ついにボケたか オレ先輩
 妻と行く スーパーで知る 物価高
 ボケてやる 既にボケてる ボケオヤジ
 花も散り 隠れた棘が 顔を出し
 服を買う 孫とペットの ものばかり
 定年後 寝ても起きても 同じ服

佐藤 正吾
 佐藤 正吾
 松本 茂
 寺岡 光二
 寺岡 光二
 寺岡 光二
 寺岡 光二
 古澤 良夫
 古澤 良夫
 古澤 良夫
 古澤 良夫
 植木 幸裕
 植木 幸裕
 植木 幸裕
 植木 幸裕
 南都嘉志手
 朴善家門
 馬場 強
 樋上 今生
 萬年 福助

頭の体操には効果抜群！ある一つの言葉、例えば「散歩」や「ボケ」等のキーワードに高齢者の「あるある」を結び付けて考えると面白い句も浮かんできます。紙と鉛筆さえあれば、時と場所を選ばずに楽しめます。出来上がった川柳を是非投稿してください。実名で出すのが恥ずかしいという方はペンネームを添えてください。

ご投稿は、chiba@kogakuin.or.jp まで
 メールまたは、年会費払込取扱票の通信欄に記載してください
 も結構です。ただし、採用されても何も出ません。ただ一人ニ
 マリして「ボケたかな 一人ニンマリ 眺める句」と周りの人か
 ら誤解されないようご注意を。

☆☆☆千葉県支部会員の皆様に御礼とお願い☆☆☆

千葉県支部は下記の方々の多くで支えられています。ありがとうございます。これからもご支援、ご協力をお願いします。
令和4年度会費納入者ご氏名（合計 ¥111,000） 敬称を省略させていただきます。

東 雄二 新井英伸 飯島康順 井坂隆一 伊野卓幸 岩本博行 植木幸裕 内山 太 大嶋茂幸
大塚洋一 大野木弘道 大日向 昭 岡村蛍哉 小高英二 川村謙二 菊田征平 來住康弘 佐藤研一
佐藤正吾 佐藤昌志 篠 欣克 新海昌美 高嶋賢一 高橋 正良 武田 昇 寺岡光二 長島 滸
成田忠志 長谷川 努 馬場禎也 原田 寛 藤田純一 古澤良夫 松原征志 松本 茂 横田 仁
吉村 征

令和4年度ご寄付を頂いた方々（合計 ¥64,000） 敬称を省略させていただきます。

井坂隆一 植木幸裕 内山 太 大嶋茂幸 大日向 昭 小高英二 川村 謙二 菊田征平 佐藤正吾
佐藤昌志 篠 欣克 新海昌美 高橋正良 武田 昇 寺岡光二 長島 滸 古澤良夫 横田 仁

令和4年度千葉県支部報告会兼意見交換会にご出席していただいたご来賓 櫻井良尚様(校友会支部組織部副部長)

2023年度 千葉県支部役員名簿

| 役職 | 氏名 | 学科 | 卒年 | 担当 | 新任 |
|------|-------|----|------|----|----|
| 支部長 | 新海 昌美 | 電気 | 1970 | HP | ◎ |
| 副支部長 | 古澤 良夫 | 電気 | 1971 | 総務 | ◎ |
| 副支部長 | 小高 英二 | 化学 | 1985 | 広報 | ◎ |
| 会計 | 植木 幸裕 | 機械 | 1975 | 名簿 | |
| 幹事 | 岩本 博行 | 化学 | 1969 | 広報 | |
| 幹事 | 長谷川 努 | 電気 | 1971 | 広報 | |
| 幹事 | 井坂 隆一 | 機械 | 1975 | 会報 | |
| 幹事 | 吉村 征 | 機械 | 1984 | 事業 | ◎ |
| 幹事 | 小川 達也 | 化学 | 1987 | 事業 | |
| 幹事 | 新井 英伸 | 電気 | 1991 | 事業 | |
| 会計監査 | 成田 忠志 | 化学 | 1978 | | |
| 顧問 | 佐藤 正吾 | 建築 | 1960 | | |
| 顧問 | 寺岡 光二 | 機械 | 1961 | | |
| 顧問 | 來住 康弘 | 電気 | 1970 | | ◎ |
| 顧問 | 横田 仁 | 機械 | 1973 | | ◎ |

任期は2023年(令和5年)5月28日「定時社員総会」から2025年(令和7年)「定時社員総会」終了まで

会報発行継続に皆様の絶大なご支援を!!

27回目となる千葉県支部会報を今年もお届けすることができました。この会報は、全国の校友とも手を携え、共に活性化して行こうということを目指して毎年1回発行しています。

丸3年以上にも亘って猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、やっと終息の気配を見せ始め、校友会活動も徐々にではありますが、対面での活動が出来るようになって来ました。しかし、他支部との交流はまだ再開できていませんし、イベントへの参加者数もコロナ前の水準に戻っていないのが現状です。その様な中、校友会活動を通じて会員相互の親睦を深め、仕事や趣味などの面でも協力し合える環境を提供し、これらの活動の楽しさ、すばらしさを手に取ってご覧いただける記事と共に、母校の近況等もお伝えして行こうと思います。

このような情報誌である会報発行に是非ご支援をお願い致します。

千葉県支部の活動は会員各位の会費や寄付金等で賄われています。2023年度の会費、そしてもし頂けるのであればご寄付も合わせて同封の払込取扱票による納入をお願い致します。また、高齢者川柳を募集しますので、払込取扱票の通信欄に記載してご投稿ください。

年会費：3,000円 ご寄付：任意

§ 編集後記 §

本年は、例年よりも早く会員から原稿を頂くことができました。一番早い原稿は1月に受け取り、3月までに大部分の原稿が届き、編集作業を落ち着いて行うことができました。どうもありがとうございます。手記原稿3編はバラエティーに富んでいて、どれも読み応えがあり、内容が濃いものでした。千葉県支部の皆様がいろいろな体験をされていることに改めて驚いております。

この編集後記は4月上旬に執筆しました。クルーズ船の事案から3年以上経ちました。最初のころはコロナのことが良くわからないので不安が先に立ち、何をすることもコロナに罹らないことを考えながら行動していました。そのため、千葉県支部の行事は、2020年の1月に「新年会&幹事会」を行ったのを最後に、2022年10月の「千葉県支部報告会兼意見交換会と懇親会」まで実施することができませんでした。それ以降は徐々にコロナ前の生活に戻つつあるように感じています。このままコロナから解放される日が来ることを願うばかりです。桜は3月中旬に開花し、WBCでは全員が大活躍して世界一になり、日本は一気に春満開になりました。

残念なことが一つあります。1ページ目の巻頭挨拶に書かれているように、横田支部長が体調を崩してしまったことです。横田支部長には早く体調を整えて千葉県支部の活動に戻っていただきたいと切に願っております。頑張ってください。横田氏は本年の「定時社員総会」で支部長を勇退し、顧問に就任されます。新支部長には現副支部長の新海氏が就任し、新しい体制で支部の活性化を進めていきます。支部会員の皆様のご協力をお願いします。

千葉県支部はこれからも会員の親睦を深めるために、皆さんが参加したいと思える魅力のある行事を計画したいと考えております。会報をお読みの千葉県支部の皆様、どうぞ行事に参加していただきたくよろしくお願い申し上げます。そして、行事の提案がありましたらぜひご連絡ください。連絡先はchiba@kogakuin.or.jpです。お待ちしております。 文責 会報担当 (機械工学科・1975卒) 井坂 隆一